

住民と取り組む地域の清掃活動が世界の人々の笑顔につながる

## 文部科学大臣賞 秋田県 大仙市立大曲南中学校

「大曲の花火」で有名な大仙市を流れる雄物川と横手川の合流地点に位置する同校。田畑が広がる環境の中、20年以上にわたり地域に根差した活動を行っている。中でも活発なのが、保護者で行うアルミ缶・古紙回収だ。生徒が前もって告知のチラシを作り各戸に配布、回収当日は、高齢者宅に出向き回収を手伝う。また、道路周辺の清掃活動も盛んで、校区の2つの小学校と合同で実施。生徒は、事前に母校の小学校を訪れ、当日の段取りなどを説明、終始旗振り役に徹する。

その様子を見守る住民も、協力を惜しまない。地域憩いの場の川港親水公園では、生徒と協力して清掃をした後、アユの塩焼きをふるまいながら交流の機会を設けている。

これらの美化活動がベースとなり、ユネスコスクールに認定された2010年以降は、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を重視。「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマに、活動を深化させている。食育では、給食残さで作った肥料を使い、住民らの指導で野菜栽培や収穫野菜の省エネクッキングに挑戦。地域の主産業が農業であることを再認識した生徒は、近隣スーパーに出向き、食品ロス防止状況について聞き取りを開始した。

さらに、環境問題を扱った講演会を開催、世界を舞台に活躍する講師が現状を報告。その生の声を生かそうと、生徒は他国で起きている問題を自分事として捉えるようになった。

こうした一連の活動は教育課程に位置付けられ、総合的な学習の時間を中心に実施。各教科とのつながりを示した「ESD カレンダー」は、重要なツールになっている。住民の佐藤友美さんは、「さまざまな経験を重ね、世界を知る講師の話聞いて、いろんな角度から物事を見ることができています。地域を大いに巻き込んで欲しい」と期待する。

本年度は、気候変動下で起きているキリバスの現状をテーマにした講演会を開催。その後、キリバスの中学生とオンライン交流を続ける中で、自分たちの地域を流れる川が汚いと、世界の海にも悪影響を与えることを痛感。身近な川を清掃することで海がきれいになり、キリバスの幸せにもつながることを強く意識するようになった。“Think Globally, Act Locally”の精神がしっかりと胸に刻まれている。



### 秋田県大仙市立大曲南（おおまがりみなみ）中学校

学校長：島田 智（しまだ さとる）

生徒数：72名(2022年11月末現在)

住所：秋田県大仙市藤木字上野中70番地2

電話：0187-65-2001

アクセス：JR「大曲駅」から車で約15分

上：20年以上続くアルミ缶・古紙回収、2左：住民と取り組む川港親水公園の清掃活動、2右：住民がふるまってくれた魚の塩焼きで交流会、3左：自分たちで収穫した野菜で省エネクッキング、3右：食品ロスについてスーパーで聞き取り調査、下：キリバスの現状に触れる